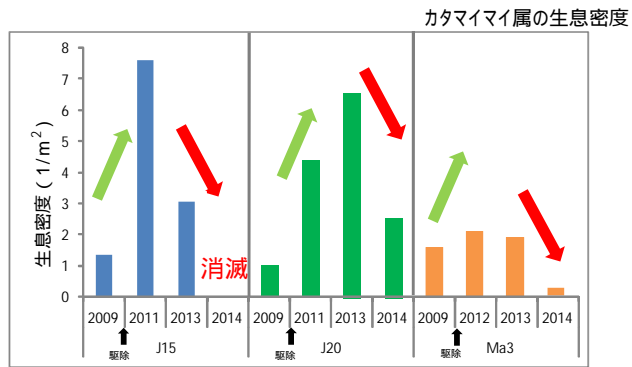


1 - 陸産貝類の保全（兄島）カタツムリの現状

< 兄島のネズミ駆除実施後における陸産貝類の生息密度の回復 >
 2009年以降、しだいに生息密度が高くなったが、2014年度に急激に悪化した。



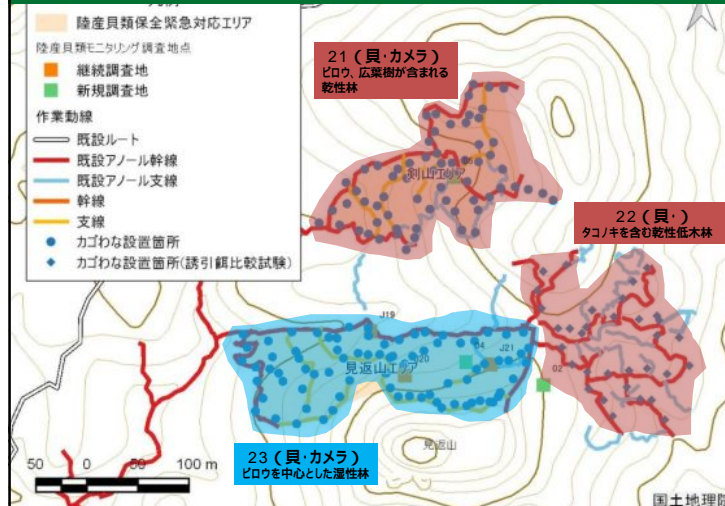
環境省調査、東北大調査

1 - 陸産貝類の保全（兄島）『保全エリアの設定』資料1-1-2

本来、兄島の全域を守るべきところ、かろうじて残っている箇所を特に抽出したもので、「ここだけ守ればいい」というものではありません。

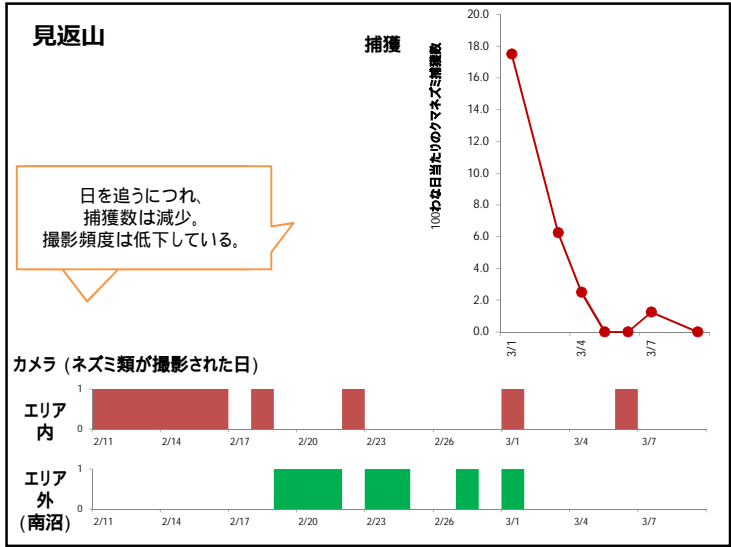
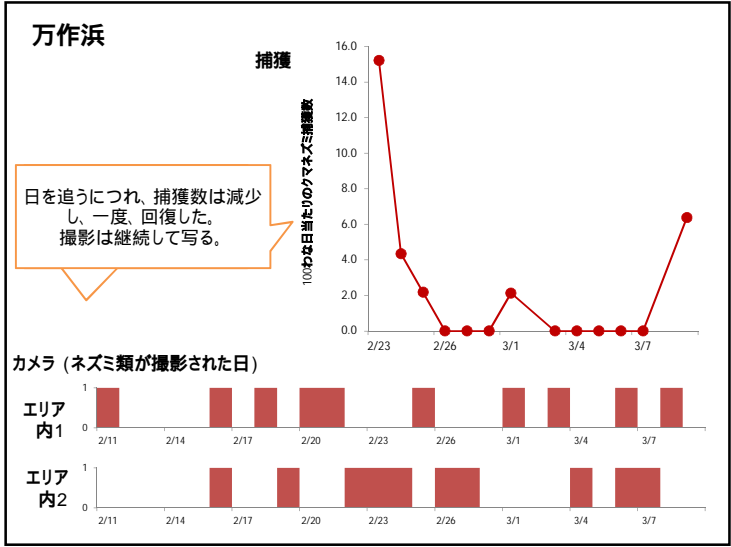
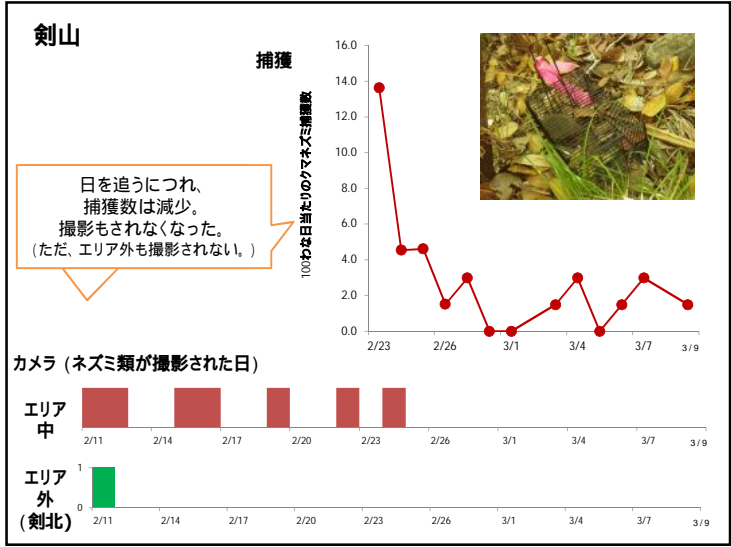


陸産貝類の保全（兄島）『保全ユニットの設定』



1 - 陸産貝類の保全（兄島）『調査プロットの設定』





1 - 父陸産貝類の保全 (父島) プラナリア侵入防止と域外保全

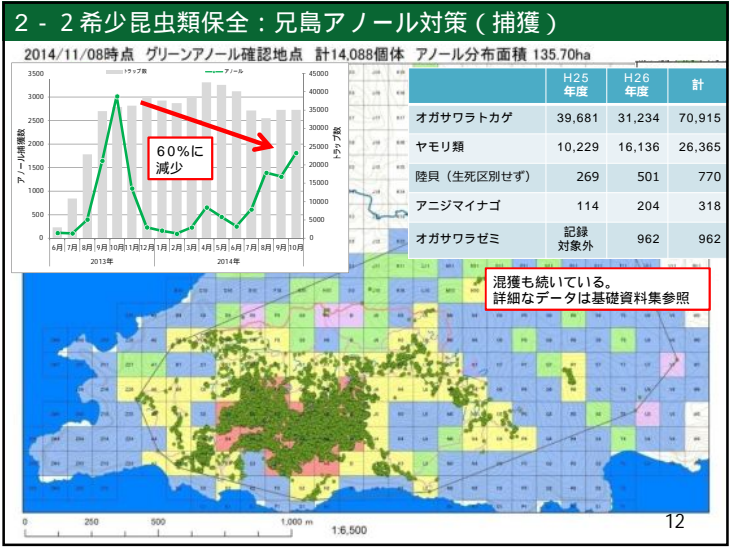
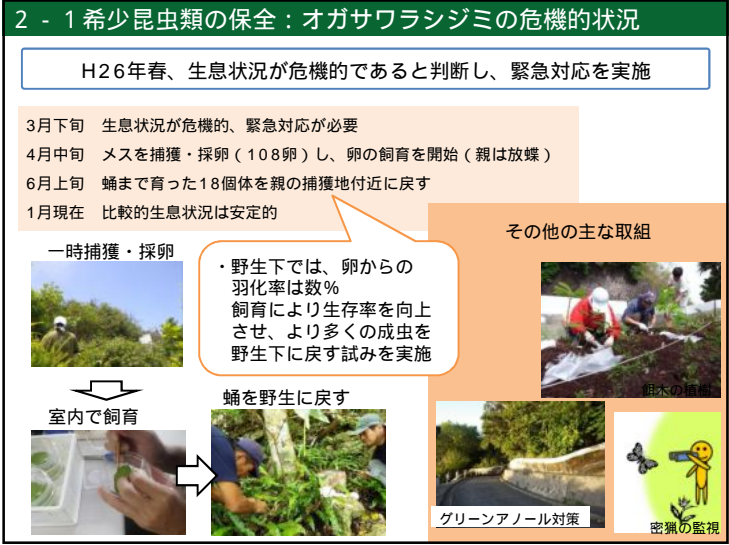
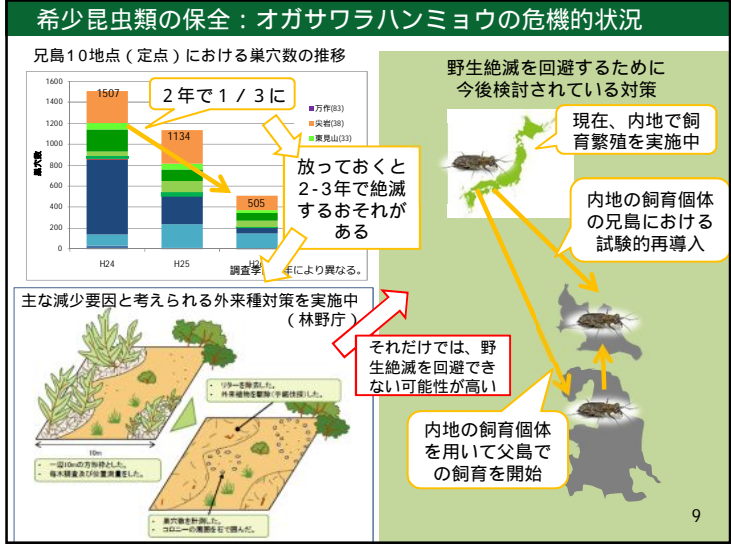
陸産貝類の域外保全

陸産貝類の域外保全

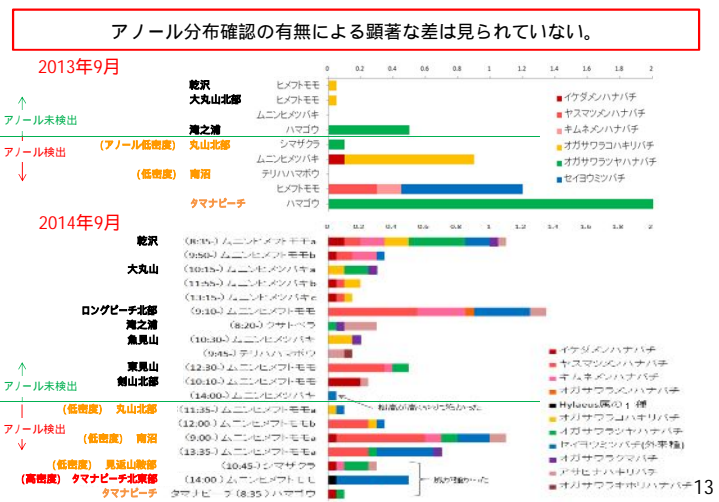
- 個体レベルでの保護
- 屋内飼育施設での繁殖
- 屋外飼育施設での繁殖
- 保全目的の移植 (再導入等)

父島島内でプラナリアが確認されていないのはわずか。このうち、H25年10月に鳥山地域でプラナリアが確認された

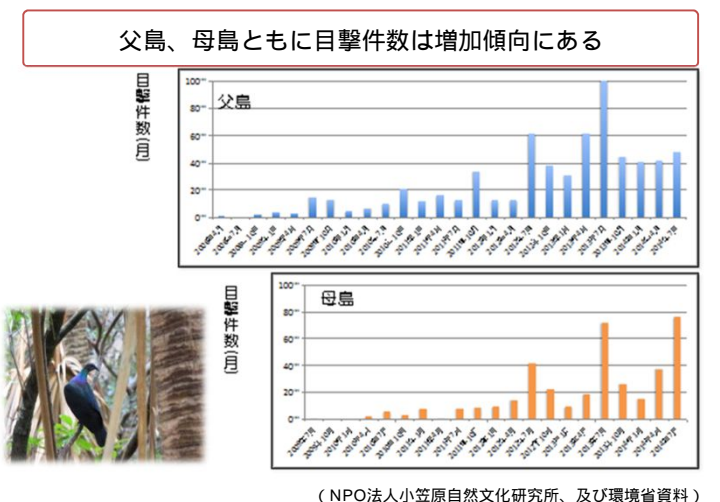
環境省において、鳥山での柵の整備の他、父島島内の激減している陸産貝類を野外から緊急的に回収し、保全目的の移植も視野に入れつつ、域外保全を行っている。



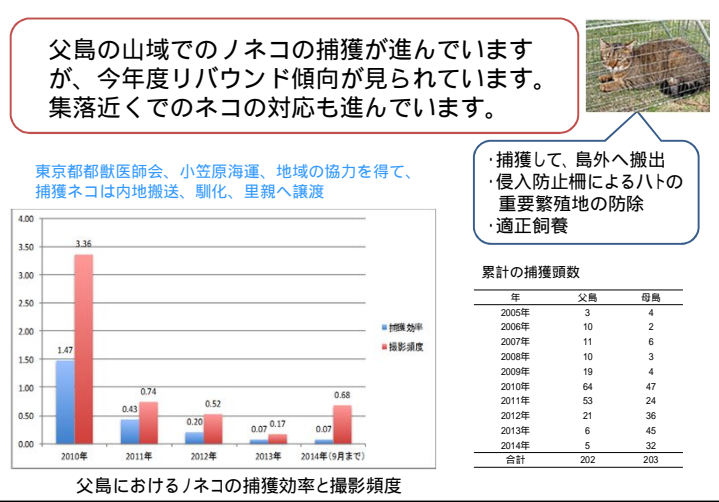
2-3 希少昆虫類保全：兄島アノール対策（生態系影響）



3. 哺乳類・鳥類の保全：アカガシラカラスバトの目撃状況



3. 哺乳類・鳥類の保全：ネコへの対応の状況



4. 希少植物の保全対策

短中期的に解決可能な課題を有している種

短期的に目標達成が困難であり、長期的視点で対策を進める種

両者は、同じ考え方では進められない。類型化し、対策の進め方を整理した上で、効率的に対策に着手していく

情報共有・関係機関の連携 (モニタリング結果や課題の情報共有)

タイヨウウツクサ

発芽実生

昨年、多くの結実が見られ、播種した種子から発芽も見られました

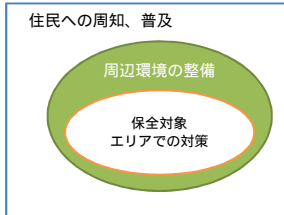
増殖技術の向上 (東京大学附属植物園と連携し、人工授粉の実施等により自然更新を補完している)

外来種駆除等による生育環境の改善

5. 地域課題（有人島でのネズミ対策の試行）

有人島での進め方は、いろいろ試してみることから始めています。

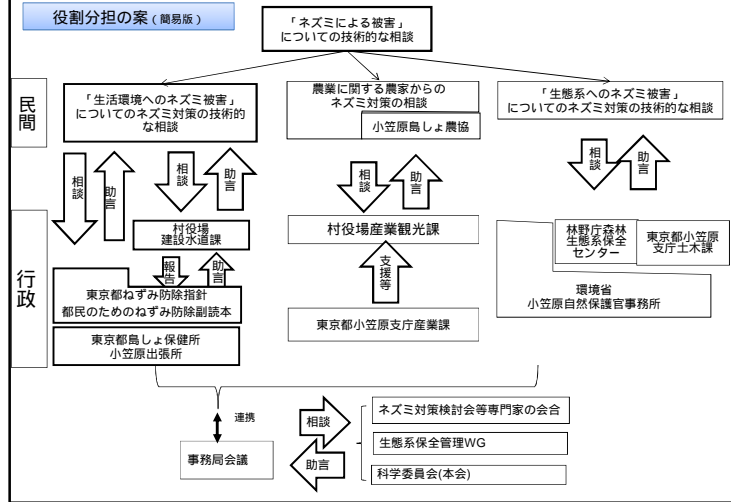
様々な取組を併せて行う（一斉取組）



一斉取組の概念図
保全対象エリア（生態系、農地、宅地等）

- 保全対象エリアでの対策
- ・ 囲い込み
 - ・ 殺鼠剤の散布、トラップの設置
 - ・ ゴミの除去
- 周辺環境の整備
- ・ 草刈り
 - ・ 糞死体の除去
 - ・ 殺鼠剤の散布、トラップの設置
 - ・ 住民・農家への周知、技術普及
 - ・ パンフレット、チラシ等の配布
 - ・ 相談窓口の設定

5. 地域課題（有人島でのネズミ対策の試行）



5. 地域課題（オガサワラオオコウモリとの共生）

< 目標：人とオガサワラオオコウモリとの軋轢の解消 >

1. 人とオオコウモリとの軋轢
 - (1) オオコウモリが人に与える影響
 - (2) 人がコウモリに与える影響
 - (3) ねぐらの管理
 - (4) 餌資源の確保
2. 小笠原オオコウモリに関する地域的な課題
オガサワラオオコウモリとの共生を図るため、
 - ・ 短期的には、人とオガサワラオオコウモリとの軋轢を解消するための取り組みを進める。
 - ・ 長期的には、オガサワラオオコウモリが在来生態系の中で生息できる環境を整えていく。

- (*) 軋轢解消に向けた議論を進める上での課題として指摘されている事項
- ・ 村民から広く意見をとり場を設定しないと、地域課題とは言えない。
 - ・ 農業者にアンケートなどで、広く声を聞き、現状把握をすることが必要ではないか。
 - ・ 直接農家と接する場に出て、声を聞く必要がある。
 - ・ オオコウモリは何頭まで許容できるのかなど、目標頭数の課題も議論するべきだ。

5. 地域課題（オガサワラオオコウモリとの共生）

柑橘・果樹への被害が発生

施設設置箇所数・面積		
24年度実績	3件	223㎡
25年度実績	4件	728㎡
26年度実績(予定)	11件	1,440㎡
27年度予定	10件	1,584㎡

果樹をネットで囲んで守る

山の餌を増やし、畑に向かわせないことも重要では？

父島小港：餌の枯渇しやすい冬の餌資源として期待される海岸植生再生

父島洲崎：在来植生の再生と、再生までの一時的な餌資源としての嗜好性の高い餌の確保

モクマオウの駆除、モモタマナの植樹、サンカクバナナの樹勢回復

5. 地域課題（外来プラナリア類の対策の試行）

乳房山遊歩道入口
プラナリアセンサー板設置地点の確認

評議平(農地周り)
プラナリアセンサー板設置地点の確認

南崎
侵入防止柵設置候補地の議論

視察地点図

5. 地域課題（外来アリ類の対策の試行）

アカミアリの侵入リスクの高いエリア

アルゼンチンアリの侵入リスクの高いエリア

奥村・製氷海岸(資材置き場)

奥町(資材置き場)

二見港(建設資材置き場)

二見港(墓参事業)

自衛隊基地
(自衛隊活動、遺骨収集事業)

洲崎(資材置き場)

ツヤオオズアリ分布（環境省目視調査分、暫定）

H27年2月27日現在
目視調査により、ツヤオオズアリの調査を実施した。
+ 発見ポイント
未発見ポイント

元地集落の他、飛び地的に鑛鑛谷周辺の路肩に見つかっている。山城付近では、鑛鑛谷、乳房山入り口、小剣先山入り口付近がある。
南崎ロータリー、中の平裏港、周辺は今のところ見つかっていないが、調査地点数が少ないので評価できない。
未発見地点や、山城入り口付近は、今後、トラップによる調査を行う予定。

ツヤオオズアリ分布（東京都小笠原支庁、環境調査）

(1) これまで実施した環境調査結果(ハチ目アリ科)

道路改修事業(Dブロック)
H24～26 環境調査実施

道路災害防除事業(31斜面)
H26環境調査実施

道路改修事業(Aブロック)
H25 環境調査実施

道路災害防除事業(22斜面)
H25環境調査実施

道路災害防除事業(16斜面)
H25環境調査実施

大谷川砂防事業
H25環境調査実施

左記の道路河川事業において環境調査を実施(H24年度以降)

↓

ツヤオオズアリは確認されていない

ツヤオオズアリ分布（東京都小笠原支庁、環境調査）

(2) 今後の対応(案)【北進線道路改修事業】

北進線道路改修事業に関わる箇所の分布調査を緊急的に実施

平成27年2月19日に実施した「北進線道路改修事業に係る専門家会議」において、道路改修事業に関連する箇所について現況の分布調査を実施する旨の報告を行った。

調査時期、調査箇所、調査方法等

詳細は今後関係機関と調整を行いながら決定する。

調査時期

アリの活動が活発になる3月頃から開始予定

調査箇所

工事箇所、資材置き場、資材搬入(沖港)など

調査方法

アノールトラップによる捕獲



5. 地域課題（地域との情報の共有）

1. 村民ボランティアによる外来種駆除作業（小笠原村、東京都）

平成13年度より主に南島での外来種駆除作業を村民ボランティア参加のもと行い、外来種の駆除作業を通して、小笠原諸島の特異な自然環境を劣化させず後世に残すため、保存・保護していくという意識啓発を行うと共に、参加する村民ボランティアの自然学習の場とする。

実施年度	実施日	参加人数	実施場所
平成25年度	H25.5.6	28名	兄島(小笠原村)
平成26年度	H26.10.22	21名	南島(東京都)

2カ年の実績



駆除作業の様子

2. 兄島視察会の開催（小笠原村）

実施年度	実施日	参加人数	実施場所
平成25年度	H26.2.1	28名	一般村民
平成26年度	H27.1.31	28名	一般村民



視察会の様子

3. 環境教育に関する取組（各機関）

- ・ 学校教育との連携
- ・ 社会人を対象とした取組
- ・ 島外からの学生を対象とした取組